

書の軌跡 大楽華雪遺墨展



《書の軌跡 大楽華雪遺墨展 ただひたむきに》が4月10日、東京・セントラルミュージアム銀座で開幕し、14日に無事幕を閉じた。

10代から亡くなるまでのおよそ70年間の作品が制作年齢順に展示され、始めて目にする作品も多くあった。先生が様々なところで話されたことや、さり気なく言われた言葉を思い出しながら作品を観ていくと、そこから『書はその時代とともに新しくあらねばならない』と『ただひたむきに』歩んでこられた先生の生き様にも触れることができた。

出来るものなら、もう一度お会いしたいと思えた遺墨展であった。

会場風景



20代の作品



88歳 絶筆『寿無涯』



31歳『飲酒』の作品の前にて
大楽悠雪会長（右）





70代の作品 中央作品は77歳『不退転』



50代の作品 右作品は56歳『みのる』



35歳『無題』



80歳『碩望』と『無依』